

令和2年度 小坂町総合戦略事業評価シートNO1
(地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業)

		担当課	観光産業課観光商工班
総合戦略における基本目標	基本目標Ⅲ「しごと」地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり		
事業名	地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業 (地方創生推進交付金)		実施年度 令和2(H29継続)
重要業績評価指標(KPI) ※R2年度末目標 ※広域連携全体	①旅行消費額 54,548百万円 ②訪日外国人宿泊者数 26千人 ③延べ宿泊者数 399千人 ④観光振興事業が地域に与える経済的効果 879百万円	重要業績評価指標(KPI)に対する成果 ※R2年度末実績 ※広域連携全体	①旅行消費額 19,323百万円 ②訪日外国人宿泊者数 2千人 ③延べ宿泊者数 270千人 ④観光振興事業が地域に与える経済的効果 1,931百万円

事業費(小坂町分 交付金対象額 交付金は対象経費の1/2)

(単位:円)

	R2年度		R3年度
	予算(計画申請経費)	決算(対象経費) (交付金交付額)	予算(計画申請経費)
事業費	8,410,000	7,700,651 (3,850,325)	6,326,000

R2年度の取り組み

【ソフト事業】

●観光事業

- スリー株式会社と連携し、秋田犬の里、北秋田市阿仁異人館、康楽館の「観光施設VR映像」を制作。
- オーダーメイドも可能な圏域のツアー予約システム「DISCOVER奥秋田」を製作し、R2.1から運営開始。
- コロナ禍における新たな収入源の試みとして、有料の康楽館演劇オンラインを配信。
- 新たな街歩きの魅力として、元年度に、古地図と連動した「街歩きデジタルマップ」を3市町で作製。2年度は残る上小阿仁村分を作製。
- 市日活性化を目的に、県北市町村及びDMOと共同で「秋田県北市日カレンダー」を作成。ワークショップは3年度も継続し、更なる魅力を伝える。

●法人運営

- 男鹿、かづの、あきた白神の県北部のDMOのほか、十和田奥入瀬、八幡平DMOなど北東北3県とも連携し、人材派遣交流(イベント等の1日程度)や情報交換を行う。
- 全国およそ300あるDMOの中から、32団体の重点支援DMOに選ばれる。県内唯一。国事業において、観光庁から積極的なバックアップを得られる。
- 第6回ジャパンツーリズムアワードで、「DMO推進賞」を受賞。

●収益事業

- 圏域の事業者及びDMOの収益事業として、ECサイトを令和2年3月に製作。その後、登録事業者を増やし、広告の効果もあり販売額は順調に推移。

●感染症関連

- 感染予防対策として、「秋田犬手洗い動画」を作成。また、感染症対策チェックリストを策定し、実施事業者にポスターおよびステッカーを配布。
- テイクアウトキャンペーンとして、オタチケ2を実施。
- 地方創生推進交付金の事業費には表れないが、全額補助の国や県の交付金等による、圏域の観光事業者に還元される事業をDMO独自に申請し、事業を実施しているほか、これまでの活動内容が評価され、県などから観光関連事業の委託を受けるなど、地域経済への波及効果はより大きいものとなっている。(KPIの経済的効果には反映)

今後の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大により観光地域づくりを取り巻く環境は激変し、観光消費額アップのための外国人観光客は見込めず、国内旅行需要も減少している。観光庁が進めているGOTOトラベルによる需要増が期待されるがそれらも不透明となっている。このような中で、事業の最終年度となる2021年度はインバウンド、国内旅行の回復に向けての調査やプロモーションをデジタル化する取り組みと、密を避けた滞在を提供する体験型コンテンツの磨き上げやワーケーションに対応した体制整備を進める。また、DMOの組織運営についても自治体からの一般財源投入を展望し、これに必要となるDMOのROI(投資利益率)を推計するモデル構築に取り組み、並行して宿泊税やTID(観光の目的に対する分担金)の調査検討を進める。

なお、2年度同様、独自に他の交付金等を活用し、アフターコロナを見据えた磨き上げなどに取り組む。(すでに1,000万円以上の観光庁10/10補助事業3件の交付決定をうけている)

◆担当部署自己分析(中間評価)

妥当性評価	12	有効性評価	15	効率性評価	12	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	5	他に効率的な手法はないか	4	39 / 45	A 拡大し展開
町民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	5	コスト削減の余地はないか	4		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	5	受益者負担は適当か	4		

※評価基準:1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※担当部署の評価: A-拡大 B-現行のまま継続 C-改善し継続 D-統合・縮小 E-廃止・休止

◆小坂町地域創生本部による客観的分析(中間評価)

妥当性評価	11	有効性評価	12	効率性評価	11	総合評価	今後の方向性
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4	34 / 45	B 現行のまま継続
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	4		

※評価基準:1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※地域創生本部の評価: A-拡大 B-現行のまま継続 C-改善し継続 D-統合・縮小 E-廃止・休止

意 見

- ・4市町村がそれぞれの特徴を活かした連携による観光振興事業は有意義である。
- ・一方、DMO及び各市町村にどのような効果もたらされているか分かりにくく、効果を明確にして事業に取り組む必要がある。
- ・様々な事業を手がけ、マスコミ等を活用した周知を行っている点は評価できる。
- ・外国人の誘客を目的とした事業ではあるが、現在のコロナ禍において先行きの見通しがたたないため、ウィズ・コロナの取り組みをもっと出した方がよい。